

日本地学教育学会 2021 年度 第 2 回 常務委員会議事録

日 時：2021 年 11 月 30 日（火）18 時 00 分～19 時 30 分

場 所：Zoom による web 会議

出席者：久田健一郎，伊藤 孝，上栗伸一，小関純一，小森次郎，清水政義，宮下 治，中林俊明，西浦慎悟，澤口 隆，高橋 修，内記昭彦，廣木義久，松本一郎，松本 現，吉本直弘，米澤正弘（計 17 名）

議 題：

1. 前回（第 1 回）議事録の確認

2. 学会賞・地学教育功労賞・渡部景隆奨励賞・論文賞選考について（上栗）

すでに昨年度第 5 回常務委員会で報告されたように，2020 年度学会賞，地学教育功労賞，および渡部景隆奨励賞それぞれについて締め切り日までに推薦は無く，2020 年度は該当者無しとなった。また遅れていた 2020 年度論文賞選考について，選考委員会による優秀論文賞の推薦はなく，若手学術賞については以下の 2 論文，松尾亮太郎会員および久森洗希会員（順不同）の各候補の受賞が，論文賞審査委員会（委員長：川村教一）から推薦され，承認された。

【2020 年度論文賞若手学術賞】

松尾亮太郎・吉本直弘

「降水を対象にした中学校理科教科書の内容分析—第 2 学年「気象とその変化」について—」

久森洗希・山崎博史・吉富健一

「経験と観察活動後のリフレクションを重視した野外観察実習プログラム—理科教員志望学生の効果的な地層観察の視点獲得のために—」

選考結果については，ニューズレターおよび「みんなの地学」で先んじて公表し，表彰については次年度の表彰とともに第 76 回全国大会島根大会で行われる予定である。

3. 島根大会の準備状況について（松本）

4. IX GeoSciEd2022 島根大会の準備状況について（澤口）

2022 年度第 76 回全国大会島根大会および IX GeoSciEd 2022 島根大会の進捗状況について，松本一郎副会長／大会実行委員長および庶務澤口から説明があった。日本地学教育学会は IX GeoSciEd 2022 島根大会を後援する。開催期間は COVID-19 の現時点での感染者状況から予定をより短くして，プレおよびポスト巡検を含めて 2022 年 8 月 19 日（金）～26 日（金）とし，開催形式はオンラインと対面のハイブリッド，IX GeoSciEd 2022 の会議開催時間を日本時間の 19 時～21 時に限定し，昼間に日本地学教育学会を，夜間に IX GeoSciEd 2022 を並行して開催する。海外からの参加者には，高校生のジュニアポスター発表にも参加をしていただく予定となっている。

日本地学教育学会島根大会については，基調講演，ジュニアセッション（ポスター），巡検（IX GeoSciEd 2022 と合同開催），その他が例年通り予定されている。本学会員は，IX

GeoSciEd 2022 島根大会に横断的に参加することを可能とし、大会参加費についても本学会員の特待を予定、また、IX GeoSciEd 2022 島根大会のプロシーディングスとして、「地学教育」特集号の刊行も併せて検討されている。

#### 5. 島根大会以降の大会開催地について（上栗）

2022 年度島根大会以降の大会開催地について議論され、複数の開催地候補があげられたが、次回以降さらに検討していくこととなった。

#### 6. J-STAGE「地学教育」誌の利用状況に関するアンケート実施について（高橋）

J-STAGE「地学教育」利用状況調査のためのアンケート内容や手法などについて議論され、引き続き常務委員会でそれらについて検討されることになった。アクセス数の推移についての情報収集は西浦編集委員長が担当する。

#### 7. 若手研究者オーラル／ポスター優秀発表およびジュニアセッション優秀賞の制度化について（高橋）

継続審議とされてきた表記事項について、具体的な規約案が提示され議論がおこなわれた。とくに選考方法について、大会実行委員会の過度な負担にならないように配慮すること、また受賞者の義務についても、「地学教育」誌への投稿が必須となるかといった点などについて議論が行われた。今後継続して審査の方法や評価基準について検討されることになった。

#### 8. 入会者・退会者について（中林）

入会者：松弘健仁（大阪）・金田康世（東京）・篠塚未暁（千葉）・野村裕美子（千葉）

退会者：樋口公忠・清水菜々子

\*正会員 416, 購読有料会員 24, 購読無料会員 23, 学生 10, 在外 0, シニア会員 64, 名誉 3 : 合計 540.

報 告 :

#### 1. 各種委員会報告

##### 1) 「地学教育」編集委員会（西浦）

西浦編集委員長から「地学教育」についての編集・発行状況が報告された。

- ・原著論文 13 件, 資料論文 9 件, 総説論文 1 件, 解説論文 1 件 = 計 24 件

（前回以降 原著論文 1, 資料論文 2 の投稿有り）

- ・第 74 巻第 1 号 --- 原著論文 3 件, 資料論文 1 件が掲載, 初校修正+第二校.

- ・第 74 巻第 2 号 --- 原著論文 2 件, 資料論文 2 件が掲載, 現在取りまとめ中.

- ・第 74 巻第 3 号 --- 原著論文 3 件, 資料論文 1 件が掲載, 12 月からとりまとめ予定.

特集号については、現在 10 件を審査継続中。審査期間を 2022 年 02 月 28 日まで延長した。J-STAGE には、現在第 73 巻第 4 号まで公開。

##### 2) 「みんなの地学」編集委員会（廣木）

「みんなの地学」第 3 号の特集テーマは「地学教育おもしろアイデア集」で投稿原稿は現

在も募集中である。2月末を原稿の締め切りとする。第2号の無償配布は完了したが、まだ100冊程度の残部がある。また、「みんなの地学」第1号は、近日中にJ-STAGEに公開される。

## 2. 関東支部企画の第二弾の準備状況について（伊藤）

伊藤副会長から、12月5日（日）開催の日本地学教育学会関東支部主催「おうちで地学」【著者と語ろう！】の進捗状況が報告された。

## 3. その他

### 1) 日本理科教育協会オンライン会議の報告（久田）

本学会も加盟している日本理科教育協会のオンライン会議が開催された。本年度は日本地学教育学会が監事担当学会となっており、会誌「理科」5号の編集を現在行っている。

\*次回、2021年度 第3回常務委員会 1月19日（水）開催。